

特許協力条約

発信人 日本国特許庁 (国際調査機関)

出願人代理人 中島 淳 様 あて名 〒 160-0022 東京都新宿区新宿4丁目3番17号 HK新宿ビル7階 太陽国際特許事務所		(1回目) PCT 国際調査機関の見解書 (法施行規則第40条の2) [PCT規則43の2.1]	
出願人又は代理人 の書類記号 BR-F03038-00		発送日 (日.月.年) 18.1.2005	
国際出願番号 PCT/J P 2004/014839	国際出願日 (日.月.年) 07.10.2004	優先日 (日.月.年) 09.10.2003	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
国際特許分類 (IPC) Int.Cl ⁷ B60C11/03、11/04、11/11			
出願人 (氏名又は名称) 株式会社ブリヂストン			

1. この見解書は次の内容を含む。

☒ 第I欄 見解の基礎

☐ 第II欄 優先権

☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成

☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如

☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明

☐ 第VI欄 ある種の引用文献

☐ 第VII欄 国際出願の不備

☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き
国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日 24.12.2004			
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 上坊寺 宏枝 電話番号 03-3581-1101 内線 3430	4 F	9834

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面
☐ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	2、4、5、10-12、15-19	有
	請求の範囲	1、3、6-9、13、14	無
進歩性 (IS)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1-19	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-19	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

文献1：日本国実用新案登録出願5-60113号（日本国実用新案登録出願公開6-50902号）の願書に添付した明細書及び図面の内容を記録したCD-ROM
（ザ・グッドイヤー・タイヤ・アンド・ラバー・カンパニー），
1994.07.12，実用新案登録請求の範囲，【0034】-
【0040】，図1-4，14-18
&US 5337816 A&EP 600265 A1

請求の範囲1、3、6-9、13、14

請求の範囲1、3、6-9、13、14に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1に記載されているので、新規性、進歩性を有しない。

請求の範囲2、4、10、11、15-19

請求の範囲2、4、5、10、11、15-19に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1により進歩性を有しない。

ピッチバリエーションの設定において、最も長いピッチと最も短いピッチが連続しないように、長ピッチ、中ピッチ、短ピッチ順に並ぶ配列とすることは当業者が容易になし得ることである。そして、オフセットされる左右の接地面のピッチ配列を同じものとする、すなわち、他方が一方の逆ピッチとすることは当業者が適宜なし得ることである。

請求の範囲5、12

請求の範囲5、12に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1により進歩性を有しない。ピッチの間隔は適宜設定し得るものである。

10/575257

1AP20 Rec'd PCT/PTO

10 APR 2006

Written Opinion (First)

Issue Date: 18 January 2005

2. References and Description Thereof

Reference 1: CD-ROM on which description and drawings originally attached to the request for Japanese Utility Model Registration Application No. 5-60113 (Japanese Utility Model Registration Application Laid Open No. 6-50902) is recorded (The Goodyear Tire & Rubber Company), July 12, 1994

Claims, paragraphs 34-40, and figures 1-4 and 14-18; and

US 5337816 A; and

EP 600265 A1

Claims 1, 3, 6-9, 13 and 14

The inventions relating to claims 1, 3, 6-9, 13 and 14 are described in Reference 1 cited in the International Search Report and thus lack novelty and inventive steps.

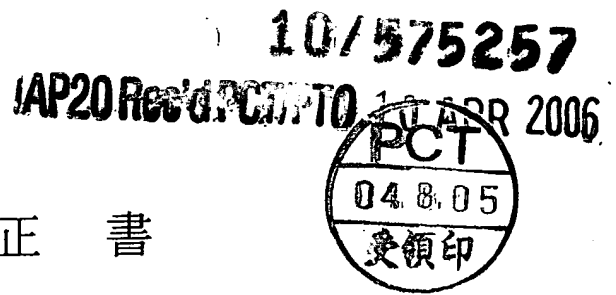
Claims 2, 4, 10, 11 and 15-19

The inventions relating to claims 2, 4, 5, 10, 11 and 15-19 lack inventive steps on the basis of Reference 1 cited in the International Search Report.

Regarding pitch variation setting, a person skilled in the art could have easily conceived of arranging the long, middle and short pitches in this order so that the longest and the shortest pitches are not disposed adjacent to each other. In addition, it could have been properly achieved by a person skilled in the art to make the pitch arrangements of the right and left contact patches, which are offset from each other, the same, i.e., to make the one reversely pitched from the other.

Claims 5 and 12

The inventions relating to claims 5 and 12 lack inventive steps on the basis of Reference 1 cited in the International Search Report. Intervals of the pitches can be arbitrarily determined.



手 続 補 正 書

(法第11条の規定による補正)

特許庁長官殿

1. 国際出願の表示 PCT/JP2004/014839

2. 出 願 人

名 称 株式会社ブリヂストン

BRIDGESTONE CORPORATION

あて名 〒104-8340 日本国東京都中央区京橋一丁目

10番1号

10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 104-8340,

JAPAN

国 籍 日本国 JAPAN

住 所 日本国 JAPAN

3. 代 理 人

氏 名 7904 弁理士 中島 淳



NAKAJIMA Jun

あて名 〒160-0022 日本国東京都新宿区新宿4丁目3番

17号 HK新宿ビル7階 太陽国際特許事務所

TAIYO, NAKAJIMA & KATO

Seventh Floor, HK-Shinjuku Bldg., 3-17,

Shinjuku 4-chome, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0022,

Japan

4. 補正の対象

請求の範囲

5. 補正の内容

(1) 請求項 1 に、「前記トレッドが、長ピッチを挟んで中ピッチ及び短ピッチとなるように配置されると共に、一方の面の前記長ピッチすなわちトレッドのピッチ間隔が最も大きい部分に、他方の面の前記短ピッチすなわちトレッドのピッチ間隔が最も小さい部分に対応する」旨の減縮を加える。

(2) 請求項 7 に、「一方の面のトレッドのピッチ間隔が最も大きい部分に他方の面のトレッドのピッチ間隔が最も小さい部分に対応する」旨の減縮を加える。

(3) 請求項 15 に、「一方の面の前記長ピッチすなわちトレッドのピッチ間隔が最も大きい部分に、他方の面の前記短ピッチすなわちトレッドのピッチ間隔が最も小さい部分に対応する」旨の減縮を加える。

6. 添付書類の目録

(1) 請求の範囲第 6 頁、第 7 頁及び第 7 / 1 頁

以上

請求の範囲

- [1] (補正後) 進行方向に対して接地面が左右幅方向に二分され、夫々の面にトレッドが配置されたトレッド構造であって、
- 夫々の面の隣り合うトレッドの間隔において長ピッチと中ピッチと短ピッチを織り交ぜ、かつ、左右のトレッドを非対称に配置し、更に、左右各面のトレッドの接地面の合計面積をほぼ等しくし、且つ前記トレッドが、長ピッチを挟んで中ピッチ及び短ピッチとなるように配置されると共に、一方の面の前記長ピッチすなわちトレッドのピッチ間隔が最も大きい部分に、他方の面の前記短ピッチすなわちトレッドのピッチ間隔が最も小さい部分が対応することを特徴とする牽引力が高く低振動のトレッド構造。
- [2] (削除)
- [3] 左右の面に配置された前記トレッドが、幅方向中央で切ったときの側面視で重なり合わない配置である請求項 1 記載の牽引力が高く低振動のトレッド構造。
- [4] 前記トレッドは、長ピッチを挟んで中ピッチ及び短ピッチとなるように、且つ、一方の面に配置されるトレッドが他方の面に配置されるトレッドに対して逆ピッチとなるように配置される請求項 1 記載の牽引力が高く低振動のトレッド構造。
- [5] 短ピッチが実質的に間隔がない請求項 1 記載の牽引力が高く低振動のトレッド構造。
- [6] 各トレッドが、前記左右幅方向に対して約 30° 傾斜して配置される請求項 1 記載の牽引力が高く低振動のトレッド構造。
- [7] (補正後) トレッド構造であって、
- 進行方向に対して左右幅方向に二分された接地面と、
- 前記接地面の左右各面に、前記左右幅方向に対して所定角度傾斜して設けられた少なくとも一つのトレッドと、を含み、
- 前記左右各面の前記トレッド間のピッチが周方向に沿って変動すると共に、

一方の面に配置された前記トレッドが、他方の面に配置された前記トレッドから周方向にオフセットされ、一方の面のトレッドのピッチ間隔が最も大きい部分に他方の面のトレッドのピッチ間隔が最も小さい部分に対応することを特徴とするトレッド構造。

[8] 前記左右各面の前記トレッドの接地面の合計面積がほぼ等しい請求項7記載のトレッド構造。

[9] 前記左右各面の隣り合うトレッドの間隔が、長ピッチと中ピッチと短ピッチの三種類から選択される請求項7記載のトレッド構造。

[10] 前記トレッドは、長ピッチを中ピッチを介して短ピッチで挟むパターンが周方向に繰り返されるように配置された請求項9記載のトレッド構造。

[11] 前記一方の面に配置されるトレッドが他方の面に配置されるトレッドに対して逆ピッチとなるように配置された請求項10記載のトレッド構造。

[12] 短ピッチが実質的に間隔がない請求項9記載のトレッド構造。

[13] 左右の面に配置された前記トレッドが、幅方向中央で切ったときの側面視で重なり合わない配置である請求項7記載のトレッド構造。

[14] 各トレッドが、前記左右幅方向よりも約 30° 傾斜して配置される請求項7記載のトレッド構造。

[15] (補正後) トレッド構造であって、
進行方向に対して左右幅方向に二分された接地面と、
前記接地面の左右各面に、前記左右幅方向に対して所定角度傾斜して設けられた複数のトレッドであって、隣り合うトレッドの間隔が長ピッチと中ピッチと短ピッチの三種類から選択されるトレッドと、を含み、
前記左右各面の前記トレッドは、前記長ピッチを前記中ピッチを介して前記短ピッチで挟むパターンが周方向に繰り返されるように配置されると共に、一方の面に配置された前記トレッドが他方の面に配置された前記トレッドから周方向にオフセットされ、一方の面の前記長ピッチすなわちトレッドのピッチ間隔が最も大きい部分に、他方の面の前記短ピッチすなわちトレッドのピッチ間隔が最も小さい部分に対応することを特徴とするトレッド構造。

- [16] 前記左右各面の前記トレッドの接地面の合計面積がほぼ等しい請求項 15 記載のトレッド構造。
- [17] 前記一方の面に配置されるトレッドが他方の面に配置されるトレッドに対して逆ピッチとなるように配置された請求項 15 記載のトレッド構造。
- [18] 左右の面に配置された前記トレッドが、幅方向中央で切ったときの側面視で重なり合わない配置である請求項 15 記載のトレッド構造。
- [19] 各トレッドが、前記左右幅方向よりも約 30° 傾斜して配置される請求項 15 記載のトレッド構造。